

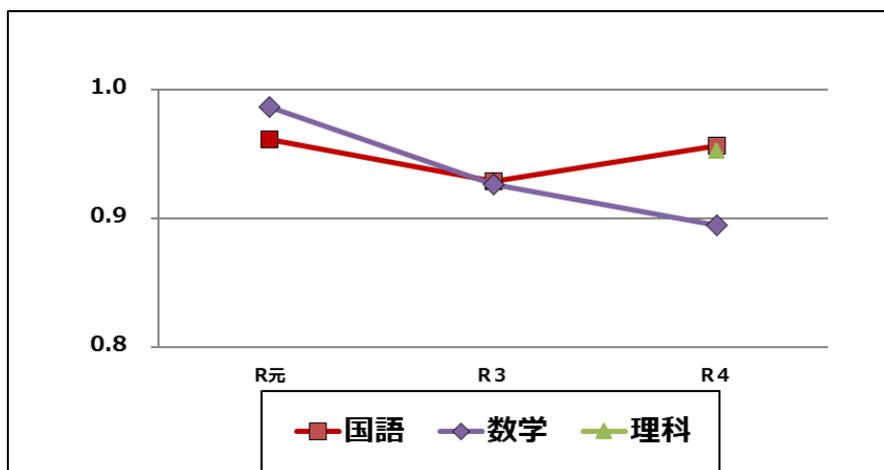
令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果について

文部科学省が今年4月に実施した、令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について、全国を基準とした経年推移等によって、本校の学力や学習の状況をお知らせします。

1. 学力調査の結果

学力調査結果から、本校と全国の経年比較(対全国比)をお知らせします。

※令和2年度は中止のため、掲載していません。また、理科は令和元年、令和3年度、未実施の為、掲載していません。



<学力調査結果の概要>

○国語について

学習指導要領の領域において、「読むこと」について成果が見られる一方、「書くこと」について課題が見られました。また、問題別では、「漢字の行書の読みやすい書き方について理解する」について成果が見られる

一方、「表現の技法について理解する」について課題が見られました。

○数学について

学習指導要領の領域において、「データの活用」について成果が見られる一方、「関数」について課題が見られました。また、問題別では「多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している」について成果が見られる一方、「筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる」について課題が見られました。

○理科について

学習指導要領の領域において、「化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができるかどうかをみる」について成果が見られる一方、「力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力を矢印で表し、その力を説明できるかどうかをみる」について課題が見られました。

## 2. 質問紙調査の結果

質問紙調査結果から、主な項目について、本校と全国の経年比較をお知らせします。

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。

※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。

※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。



<質問紙調査結果の概要>

「国語の勉強は好きだ」、「国語の授業の内容はよくわかる」の肯定的な回答の割合は、令和元年及び令和3年は全国を下回っていますが、令和4年は全国比でそれぞれ+14.0ポイント、+8.1ポイントと大きく上回っています。「数学の勉強は好きだ」、「数学の授業はよくわかる」の肯定的な回答の割合は、令和1年から令和3年にかけて低下しましたが、令和4年は全国比でそれぞれ-1.6ポイント、-0.8ポイントとほぼ全国と同値まで上昇しています。「理科の勉強は好きだ」、「理科の授業内容はよくわかる」の肯定的な回答の割合は、全国比でそれぞれ、-12.1ポイント、-7.5ポイントとなっています。

<まとめ>

令和3年から4年にかけて「国語の勉強は好きだ」の肯定的な回答の割合が大きく上昇しており、それと同様に国語における学力調査の結果も大きく上昇しています。「好きこそ物の上手なれ」ということわざが示すように、どの生徒も好きで学習していることには夢中になるし、それに関してさらに理解しようと自ら勉強したり、深めたりするので、自然に結果もついてくると思われます。すべての生徒がいかに楽しんで学習できるか、生徒の興味、関心を引き出す教材研究と授業づくりが肝要と思われます。

3. 教科に関する調査

(1) 成果のあった問題

<国語>

スピーチをどのように工夫して話すか

	正答率	無解答率
本校	57.5	16.7
全国	51.7	16.2

(考察)

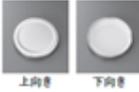
入学時より多くの授業において、自分の考えに根拠を持ち、その意図を明確にして記述するという言語活動に取り組んできました。その結果、授業において、生徒自身が進んで意見を述べるできるようになってきています。明確に自分の考えを述べるという活動の積み重ねの成果がでていると考えます。社会生活で必要不可欠なこの資質・能力をより高めることができるよう、継続して授業で取り組んでまいります。

<数学>

容器のふたを投げたときに下向きになる確率を選ぶ

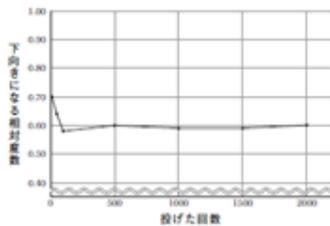
5 右の図はある容器のふたです。このふたを多数回くり返し投げたとき、どのくらいの割合で下向きになるかを調べました。

次の表は、このふたを投げたときの下向きになった回数を記録し、下向きになる相対度数を求め、小数第3位を四捨五入してまとめたものです。



投げた回数	下向きになった回数	下向きになる相対度数
10	7	0.70
50	32	0.64
100	58	0.58
500	299	0.60
1000	589	0.59
1500	889	0.59
2000	1190	0.60

この表をもとに、下向きになる相対度数について次の折れ線グラフに表しました。



前ページの表や折れ線グラフから、下向きになる確率がどのくらいであるかといえます。その確率として正しいものを、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

- ア およそ0.5      イ およそ0.6  
ウ およそ0.7      エ およそ1.0

	正答率	無解答率
本校	84.2	0.0
全国	83.3	0.3

(考察)

この問題の類題として、1年生のときに“ペットボトルキャップの裏表の出方”、2年生のときには“サイコロの1の目が出る”という相対度数や確率を考えるため、実際に道具を用いた複数回の試行実験を行っています。そのため、「実験回数が多いほど理論上の確率に近づく」ということを、実験を通して考えることができ、印象に深く残っているため、正答率が高かったのではないかと考えます。

<理科>

化石が観察できる露頭かを考える場面

学芸員：A地点には、玄武岩が分布しています。化石が観察できるか考えましょう。

青木さん：玄武岩は  X  だから、化石は  Y  。

(1)  X  Y に当てはまる適切なものを、下のア、イの中からそれぞれ1つずつ選びなさい。

X    ア 火成岩      イ 堆積岩

Y    ア 観察できます    イ 観察できません

	正答率	無解答率
本校	50.9	0.0
全国	48.0	0.3

(考察)

中学校で覚えるべき岩石は、大きく分けて火成岩と堆積岩の2種類あります。この2種類の中で化石が含まれる岩石は堆積岩です。玄武岩が火成岩に分類されるということは、覚えておくべき必須内容であり、知識としてきちんと定着していたので、正答率が高かったと考えます。

(2) 課題のあった問題

<国語>

	正答率	無解答率
本校	36.0	0.4
全国	52.5	0.7

**問題の概要(見出し)**

「―――(以下略)―――」

1 「……」

2 「……」

3 「……」

4 「……」

**(考察)**

知識・技能的な問題は大きな課題です。自分の意見を発言することには積極的ですが、学んだ知識を活用して発展的に想像したり考えたりする活動には、少し消極的な印象を覚えます。より豊かに自分の意見を話したり、書いたりするには、知識・経験が必要不可欠です。授業においても、言語活動的な授業を通して、協同的に知識を身につけることができるような工夫が喫緊の課題であると考えます。

<数学>

	正答率	無解答率
本校	8.8	52.6
全国	10.1	38.5

∠ABE + ∠CBF = 30°を示すことで、長方形ABCDの辺の長さを変えても、∠EBFの大きさがいつでも60°になることが説明できます。琴音さんの考えの④にある△ABE = △CFBと∠EAB = 150°はすでにわかっていることとして、∠ABE + ∠CBF = 30°になることを下の説明の□に示し、∠EBFの大きさがいつでも60°になることの説明を完成しなさい。

**説明**

∠ABE + ∠CBF = 30°になることが示せたので、  
 ∠EBF = 90° - (∠ABE + ∠CBF) より、  
 ∠EBF = 90° - 30° = 60°になる。

**(考察)**

この問題で正答率が低く、無回答率が高かった理由は、根拠を示して説明するための知識不足と考えます。根拠を示すためには、長方形や正三角形の性質を理解している必要がありますが、定着が不十分でした。また、自分の中では理解していても、言葉や文字にして数学的に説明することに苦手意識をもつ生徒が多くいます。図形の証明だけでなく、式の利用など他の分野においても授業の中で他者に説明したり、記述する機会を増やしていきます。

<理科>

考察を検討している場面



測定値が足りないため、どちらの考えが妥当か判断できません。

(3) 下線部について、測定値をどのように増やせばよいか、【実験の計画】の「加える力の大きさを0から0.5Nずつ2.0Nまで変化させた」の部分を参考にして書きなさい。

	正答率	無解答率
本校	35.1	43.9
全国	43.1	29.4

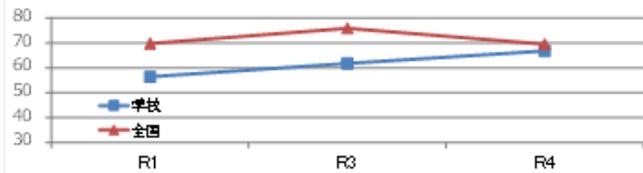
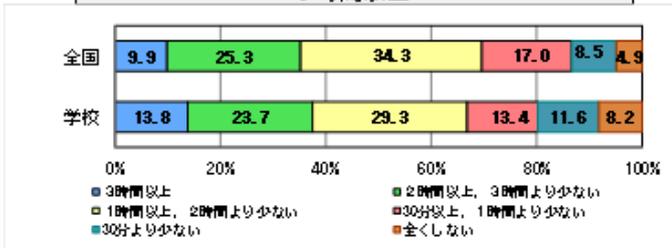
(考察)

使用する教科書には実験の結果が記載されており、生徒は実験する前から結果を把握しています。そのため、今回のような問題も、比例の関係になると理解しており、教師側も、教科書の内容を教える中で、測定値を増やし、データの信頼性を上げていくことに、あまり触れる機会がありません。結果、生徒は細かくデータを取ることが、実験のデータの精度を上げることにつながることに結びついていません。今後は実験のデータを基に考察させる(例えば、比例の関係になるなど)だけでなく、実験のデータの精度を上げる方法を考える授業を展開していく必要があると考えます。

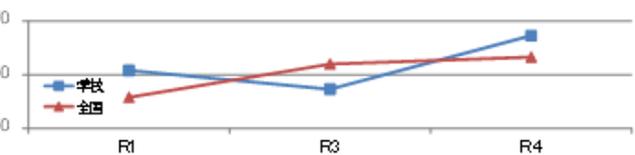
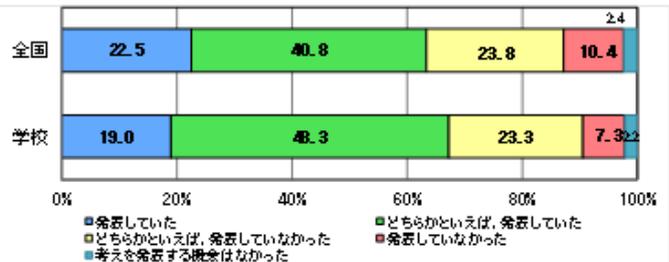
4. 質問紙に関する調査

【特徴的な項目について①】

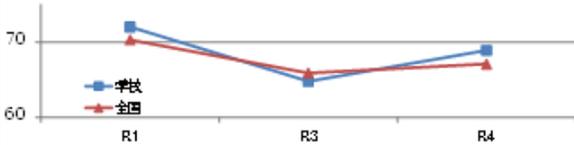
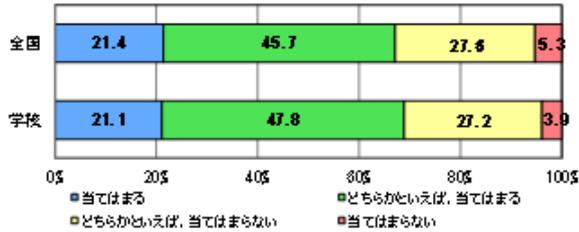
授業時間以外、普段(月～金)1日の勉強時間  
1時間以上



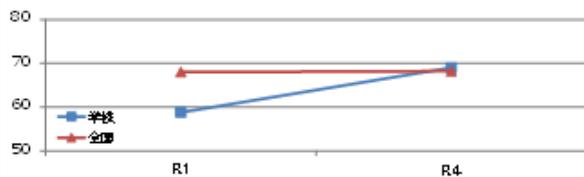
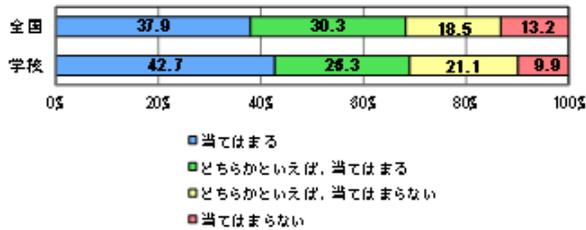
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。



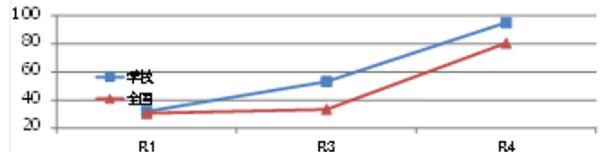
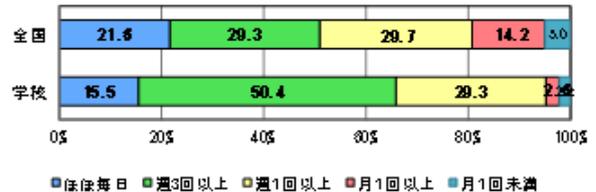
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している



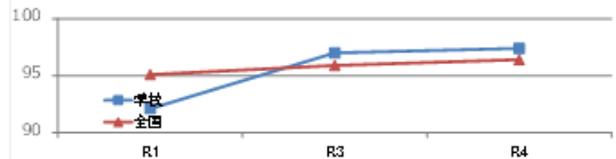
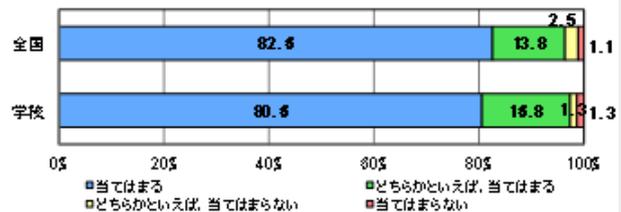
読書は好きですか



1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う

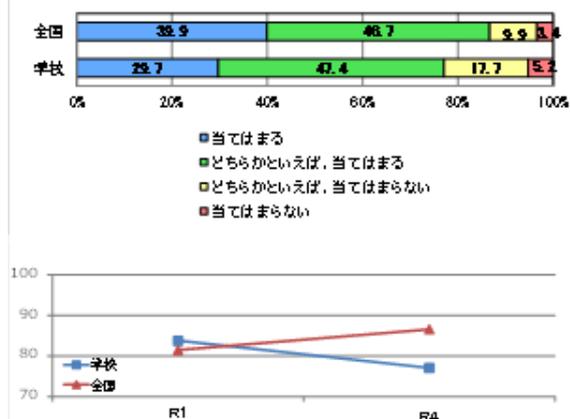


(考察)

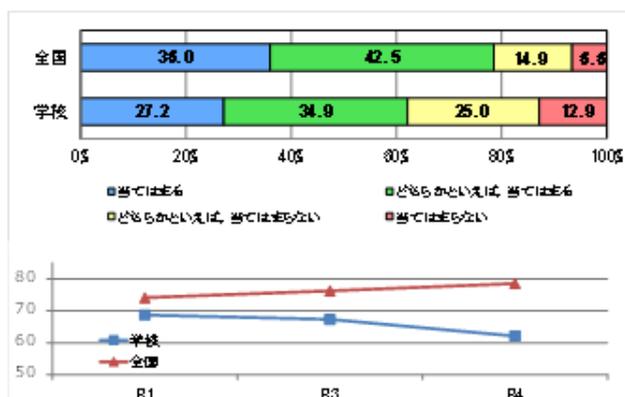
家庭学習定着の取組、ICT 機器の活用、朝読書の取組において、肯定的な回答の割合が年々増加しています。また、令和3年度生徒会の方針「挑戦」を踏まえた生徒会活動により、生徒の難しいことにも「挑戦」する意識が高まりました。そして、自分で考え、自分の考えを自分の言葉で表現する場面を取り入れた授業の実践やいじめは許さないという風土が醸成されつつあります。

## 【特徴的な項目について②】

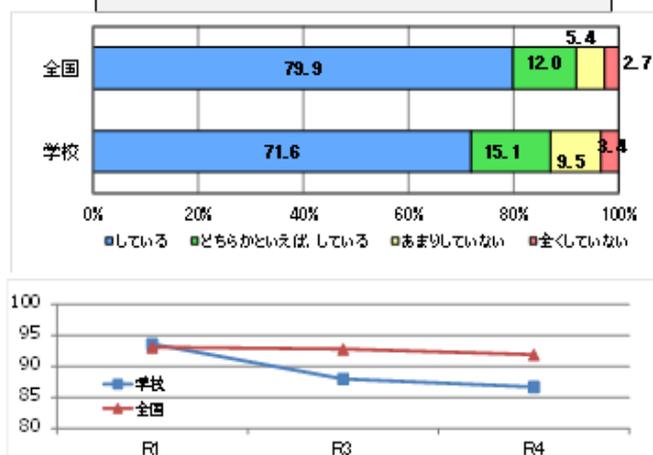
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



自分にはよいところがあると思う



朝食を毎日食べている



(考察)

「朝食を毎日食べている」と回答した生徒の割合が年々減少しています。全国学力・学習状況調査の平均正答率と朝食には、相関関係があると言われていることから、家庭の状況を踏まえた食育の取組が必要と思われます。また、「自分にはよいところがある」と回答した生徒の割合も年々減少しており、「いいところみつね」など、生徒が自己肯定の意識を高める取組が必要と考えます。見える結果のみを褒めるのではなく、粘り強さや我慢強さなど、そこに至るまでの見えない過程を認める意識が大切だと思います。

本校は、これらの分析を踏まえて以下のことに取り組んでまいります。

### (1) 授業改善について

- 生徒から「わかった」、「できた」、「なるほど」などの眩きが聴こえてくるような授業づくりに努めます。
- 生徒がともに学び合い、みんなで課題を解決する時間を取り入れるとともに、自分で考え、自分の考えを自分の言葉で表現する場面を取り入れた授業づくりに努めます。
- 生徒が受け身ではなく主体的に学べるように、タブレット等の ICT 機器を活用して楽しくわかる授業づくりに努めます。

### (2) 家庭学習について

- タブレットを活用した週末宿題「津田中 1 時間 +  $\alpha$  運動」等を継続しておこなうとともに、取組の成果を「可視化」するなど、生徒が達成感を味わうことができるような取組を推進します。
- 中学校の定期テスト1週間前を「校区家庭学習強化週間」と位置づけ、校区小学校と連携した放課後学習や家庭学習の取組を推進します。
- 学校だよりや学級通信、ホームページ(ブログ)等を活用して、学校の取組や生徒の様子を効果的に発信するなど、積極的な情報発信に努め、家庭と円滑な連携を図ります。

(3)生徒が安心して生活できる環境づくりについて

- 正しい生徒理解と信頼関係のもと、基本的な生活習慣が身につくよう、率先垂範により場面を捉えて厳しさの中にも温かさのある指導をおこないます。
- 日頃から生徒の状況を把握し、「聴く」、「受け止める」などのカウンセリングマインドにより内面に迫る指導をおこない、必要に応じて専門家や福祉機関を含めた関係諸機関と連携を図ります。
- 生命の大切さや人を思いやる心など、豊かな人間性と社会性を育むため、道徳・人権教育を基盤とした心の教育を推進します。